

令和3年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	庄原市立庄原中学校	校長	中重 秋登	生徒指導主事	中山 貴太
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『全学年協働モザイクアート』
-------	----------------

取組における育てたい資質・能力					
-----------------	--	--	--	--	--

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「協働する力」	1	「表現力」	3	「行動力・貢献（自己存在感）」	2

取組のねらい

- 例年行われている合唱祭等の行事が中止となり、学校の行事等を通して生徒たちが一体感や達成感を感じる機会がほとんどない。そのため、全学年でモザイクアートを作成する活動を通して、生徒に一体感や達成感を感じさせる。
- コロナ禍において、地域を元気にするために自分たちにできることを考え、地域に貢献するために協働し、行動できる生徒の育成を目指す。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『キーワード 自己存在感』
----------	--------------------------

<p>生徒会執行部が中心となり、計画を立て、以下の順番で進めていった。①各委員会を開き、各委員長からこの取組の目的や内容について説明する。②各委員会で仕事を分担し、モザイクアートの作成にあたる。③各クラスの学活等で、生徒は1人4枚ずつ絵を描く。1枚の紙のサイズは7cm×7cmとし、紙に自分でデザインした絵を描く。④生徒が書いた紙を集め、生徒会執行部の生徒がデザインアートになるよう並べる。モザイクアートのサイズは3.2m四方。⑤作成後は市役所等と連携し、各機関に作品を展示したり、作品を写真にとってコピーしたものを配付したりする。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めながら、全学年で一斉に取り組むことができるように作成した。作成したモザイクアートは本校多目的ホールへ掲示し、その後、作品を市内のショッピングセンターにも掲示した。また、作品を写真に撮り、縮小したものを市役所や郵便局等へ配付した。全学年で一つのものを作成することで、他学年との間接的な交流につながった。また、完成したモザイクアートを直接目にしたり、その作品を地域へ発信したりすることができたことで、生徒の自己肯定感の高まりがみられた。</p>
--	---



取組の成果と課題

中国新聞に本校生徒の言葉として、「みんなの思いが詰まった作品ができ、達成感とうれしさが込み上げてきた」と掲載された。作品の完成に向けてコロナ禍による様々な課題を解決しながら、生徒会を中心として全校生徒が思いを込めて作成したことで、一体感と達成感を得ることができた。一つの目的に向かって、みんなで取り組むことのうれしさや完成時の達成感は、これからの学校生活を送るうえでの大きな力になると考える。